

## トラック輸送情報（平成25年2月分）

平成25年5月8日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：桑原 内線28723

直通：03-5253-8346

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、4,745,933トンで、前月と比べ総輸送量が約263千トン増加したため、前月比105.9%（季節調整済み103.3%）となり、前年同月との比較では、約115千トン減少したため、前年同月比97.6%の実績であった。

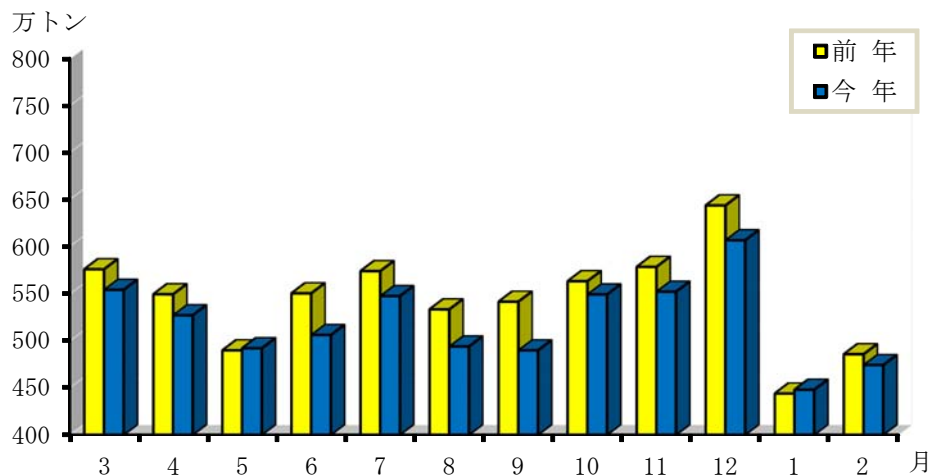
なお、平均稼働日数は22.5日で、前月と比べ0.8日増加し、前年同月との比較では、1.1日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、210,930トンで、前月と比べ約4千トン増加したため、前月比102.1%となり、前年同月との比較では、約5千トン増加したため、前年同月比102.4%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

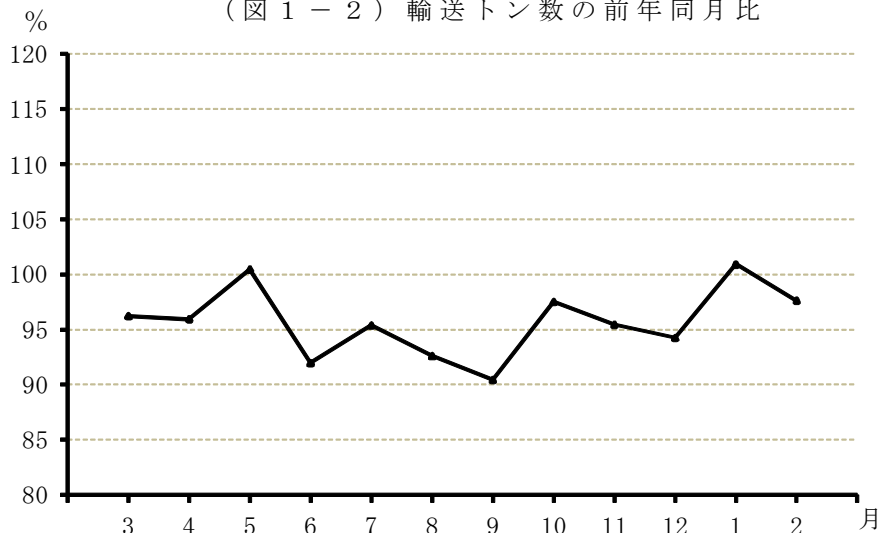
注）平成25年2月から貨物輸送の調査対象については、1社減り、24社となった。

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



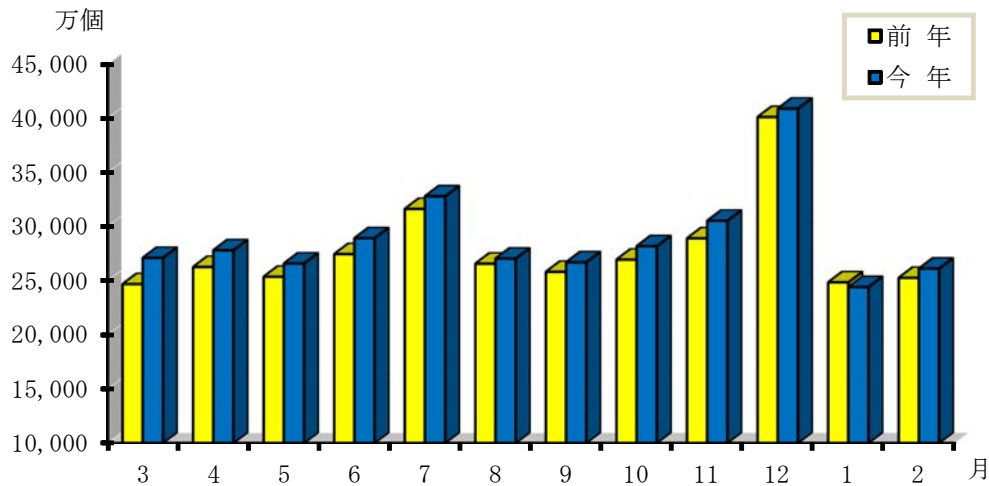
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



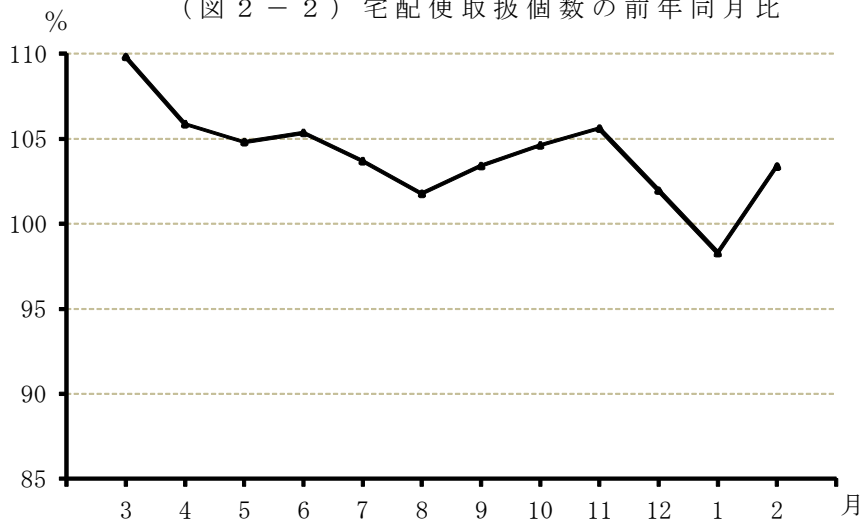
## (2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、261,339 千個で、前月と比べ 約 17,005 千個増加したため、前月比 107.0% (季節調整済み 103.2%) となり、前年同月との比較では、約 8,510 千個増加したため、前年同月比 103.4%の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



## (3) 調査対象 25 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、「食料工業品」及び「日用品」で、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が共通して見られたほか、商社・問屋からの貨物増や季節的需要増が「日用品」で見られた。「食料工業品」の主な増加地域は関東地方、北陸信越、中国で、「日用品」の主な増加地域は、関東地方、中国であった。

前年同月と比べると、「食料工業品」で輸送量が増加したと回答する事業者があったものの、「金属製品」、「機械」、「繊維工業品」で輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減が共通して見られた。「金属製品」の主な減少地域は、関東、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国で、「機械」の主な減少地域は、関東、中国であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	変 増	ら 減	著 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品		4	13	1				
	金属製品		5	15	1		4		
	機 械		8	12		神奈川、関東、中部地方	4		
	化学工業品	1	6	13	2	関東	4, 7		
	繊維工業品		4	18					
	食料工業品	1	6	12	1	製造食品	関東地方、北陸信越、中国	4	
	日 用 品	1	11	10		その他の日用品	関東地方、中国	4, 5, 8	
	そ の 他	1	5	13	1				
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		2	12	3	1			
	金属製品			12	8	1	建設・建築用金属製品	関東、北陸信越、中部、大阪、兵庫、中国	4
	機 械			13	7		機械部品	関東、中国	4
	化学工業品	1	2	15	4				
	繊維工業品			16	5	1		4	
	食料工業品	1	3	14	2	製造食品		4	
	日 用 品		2	15	4	1	その他の日用品		
	そ の 他		2	12	3	3	その他(百貨店配送品)		2

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者777社/調査対象事業者数1,068社)の輸送量は、前月比 101.8%、前年同月比 99.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	99.3 %	103.2 %	101.5 %	96.6 %	97.4 %	97.8 %	94.5 %	101.0 %	97.5 %	95.4 %	94.8 %	
前 月 比	101.8 %	98.7 %	104.2 %	101.8 %	100.5 %	102.9 %	105.9 %	105.2 %	106.0 %	99.0 %	99.0 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比98.7%、対前年同月比103.2%であった。品目別では、工場、生産地からの貨物増により「水産品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、工場、生産地からの貨物減により「その他の農産品」が、建設関連の需要減により「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月はほぼ横ばい傾向、以降は減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比104.2%、対前年同月比101.5%であった。品目別では輸出入の貨物増により「その他の石油製品」が、商社・問屋からの貨物増により「食料工業品」が、さらに季節的需要増により「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降は減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比101.8%、対前年同月比96.6%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の石油製品」等の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比100.5%、対前年同月比97.4%であった。品目別では、建設関連の需要増により「セメント」、「その他の窯業品」の輸送量が増加したと回答した事業者があった。一方、季節的需要減により「その他の化学工業品」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比102.9%、対前年同月比97.8%であった。品目別では、建設関連の需要増により「その他の窯業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、景気の影響による貨物減により「紙・パルプ」が、季節的需要減により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比105.9%、対前年同月比94.5%であった。品目別では、年度末工事の貨物増により「非鉄金属」、「金属製品」が、デパート・スーパー等からの貨物増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、航空輸入貨物減により「日用品」が、製品規格の切り替えによる出荷調整により「化学薬品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、円安の影響により輸出貨物に復調傾向がみられるが、輸入貨物の減少もみられ、次月及び以降ともほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比105.2%、対前年同月比101.0%であった。品目別では、季節的需要増等により「その他の農産品」、「取り合せ品」が、建設関係の需要増等により「木材」、「機械」、「廃棄物」が、さらに工場・生産地からの貨物増により「金属製品」、「セメント」、「その他化学工業品」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「セメント」、「廃棄物」が、工場・生産地からの貨物減により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比106.0%、対前年同月比97.5%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」、「野菜・果物」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「機械」が、さらに工場・生産地からの貨物増により「工業用非金属鉱物」が、デパート・スーパーからの貨物増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比99.0%、対前年同月比95.4%であった。品目別では、年度末に向けて建設関連の需要増により「鉄鋼」が、また、季節的需要増により「野菜・果物」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減により「食品工業品」、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比99.0%、対前年同月比94.8%であった。品目別では、建設関連の需要増により「機械」、「その他の窯業品」が、商社・問屋からの貨物増により「鉄鋼」、「食料工業品」、「日用品」、「金属くず」が、季節的需要増により「その他の窯業品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、輸出入の貨物減により「食料工業品」が、商社・問屋からの貨物減により「木材」、「紙・パルプ」が、倉庫への入出庫減により「鉄鋼」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
			海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
			道	北	東	信	越						計
1. 穀物	増									2			2
	減												
2. 野菜・果物	増			1						4	6		11
	減	1	1		1				1	1	3		8
3. その他の農産品	増								2	1	1		4
	減	2											2
4. 畜産品	増	1											1
	減	1						1			1		3
5. 水産品	増	3											3
	減		1						1				2
6. 木材	増	1	1		1				3	1			7
	減	2								2	3	1	8
7. 薪炭	増												
	減												
8. 石炭	増	1											1
	減										1		1
9. 金属鉱物	増	1											1
	減												
10. 砂利・砂・石材	増	6	1			1		1	2	1			12
	減	5			1	1		4		1			12
11. 工業用非金属鉱物	増		1		1				3				5
	減	1	1										2
12. 鉄鋼	増	1						1		5	3	1	11
	減		1								1	1	3
13. 非鉄金属	増							1	1			1	3
	減										1		1
14. 金属製品	増		2					2	2		7		13
	減	1	2								2		5
15. 機械	増	1			2	2	2	4	4	4	2	1	18
	減		1		1	1	1		1	2			7
16. セメント	増	1	1		2				4	1	4		13
	減	3	1						2				6
17. その他の窯業品	増				1	1						1	3
	減				1		1		2		1		5

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18. 揮 発 油	増		1		2							3
	減											
19. その他の石油製品	増	2	2	1				1	1			7
	減	7			1		1		1			10
20. コークス・ その他の石炭製品	増											
	減											
21. 化 学 薬 品	増	1							2			3
	減	1					1					2
22. 化 学 肥 料	増	1										1
	減		1		1		1					3
23. その他の化学工業品	増	1			1			4	1	1		8
	減	1			1	1		1		1		5
24. 紙 ・ パ ル プ	増				2		2		3	1		8
	減	1				1				1	1	4
25. 織 維 工 業 品	増											
	減											
26. 食 料 工 業 品	増	1	4	1			3	3	2	2	1	17
	減	2	1	1	1	1	1	2	1	6	1	17
27. 日 用 品	増	1	2		1		1	1	1		2	9
	減	1			1		3	1		4		10
28. その他の製造工業品	増		1			2			1	1		5
	減					2				1		3
29. 金 属 く ず	増										1	1
	減											
30. その他のくずもの	増								1			1
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	2	1	1						1		5
	減	2	2							1		5
32. 廃 棄 物	増	5	1					2	1	1		10
	減	4	2					2				8
33. 輸 送 用 容 器	増						1			1		2
	減								1			1
34. 取 り 合 せ 品	増							3				3
	減		2					2		1		5
35. そ の 他	増	1	2	2	2		2	3	2		1	15
	減	1	1	2	4		1	2		3		14